

著書

【単著】

- 『人格知識論の生成－ジョン・ロックの瞬間』、東京大学出版会、1997年5月、376頁
『原因と結果の迷宮』、勁草書房、2001年9月、312頁
『原因と理由の迷宮－「なぜならば」の哲学』、勁草書房、2006年5月、317頁
『功利主義と分析哲学－経験論哲学入門』、日本放送出版協会、2010年3月、280頁
『死の所有－死刑・殺人・動物利用に向きあう哲学』、東京大学出版会、2011年1月、408頁
（後に『死の所有 増補新装版』、東京大学出版会、2019年5月、459頁として増版）
『確率と曖昧性の哲学』、岩波書店、2011年3月、320頁
『放射能問題に立ち向かう哲学』、筑摩選書、2013年1月、286頁
『英米哲学史講義』、ちくま学芸文庫、2016年7月、382頁（上掲『功利主義と分析哲学』
を、プラグマティズムと現代正義論についての新章を加えるなどして、増補改訂した
文庫版）
『英米哲学入門－「である」と「べき」の交差する世界』、ちくま新書、2018年4月、
362頁
『いのちとリスクの哲学－病災害の世界をしなやかに生き抜くために』、株式会社ミュー、
2021年3月11日、372頁

【編著】

- 『真理への反逆－知識と行為の哲学』、河本英夫氏との共編著、富士書店、1994年
3月、219頁（担当部分・序論「知識という行為－人格的知識に向けて」pp.7-17
および第Ⅱ章「原因と結果の概念－責任概念への帰還」、pp.56-98.）
『西洋哲学史の再構築に向けて』、共編著（監修・渡邊二郎）、昭和堂、2000年4月、
528頁（担当部分・第11章「『観念』再考－経験論の源泉へ」、pp.278-338.）
『西洋哲学史再構築試論』、共編著（監修・渡邊二郎）、昭和堂、2007年10月、609頁
（担当部分・第5章「感覚的知識の謎－ロック知識論からするプロバビリティ
概念の探究」、pp.160-200.）
『死生学 [5] 医と法をめぐる生死の境界』、高橋都氏との共編著、東京大学出版会、
2008年11月、263頁（担当部分・「はじめに」pp.1-6、「加害と被害をめぐる
生死の境界」pp.145-164.）
『ヒトと動物の死生学－犬や猫との共生、そして動物倫理』、新島典子氏との共編著、
秋山書店、2011年3月、167頁（担当部分・「まえがき」pp.3-9、「動物への
配慮」の欠落と充実」、pp.143-159.）
『低線量被曝のモラル』、伊東乾・影浦峯・児玉龍彦・島蘭進・中川恵一諸氏との共編著、
河出書房新社、2012年2月、351頁（担当部分・「はじめに」pp.1-9、「因果関係とは
何か－低線量被曝の因果的影響をめぐる」pp.219-250.）
『東大ハチ公物語－上野博士とハチ、そして人と犬のつながり』、正木春彦氏との共編著、
東京大学出版会、2015年3月、230頁（担当部分・プロローグ「東大ハチ公物語」
のシンボリズム」pp.5-23、第一話「ハチ」そして「犬との暮らし」をめぐる哲学断
章」pp.25-55、「あとがき」pp.227-229.）
『福島はあなた自身－災害と復興を見つめて－』、早野龍五・中川恵一氏との共編著、
福島民報社出版部、2018年9月、192頁（担当部分・「まえがき」pp.3-7、
導入「福島問題は私たち自身の内在的問題である」pp.12-37、第四部
「被災動物、そして動物倫理の暗闇」pp.164-181.）
『病災害の中のしあわせ－自然災害とコロナ問題を踏み分けて－』、西本照真との共編著、
武蔵野大学出版会、2021年12月、270頁（担当部分・序章「しあわせ」の二極性
から「個人」概念の深みへ」pp.5-21、第5章「自然災害と感染症に立ち向かう倫理－
大震災とコロナ感染症の中でしあわせは成り立つか－」pp.97-140.）

【共著】

- 『イギリス思想の流れ－宗教・哲学・科学を中心として』、共著、鎌井敏和・
泉谷周三郎・寺中平治編、北樹出版、1998年6月、183頁（担当部分・第5章

- 「バークリにおける神と原因」、pp.90-113.)
- 『感覚－世界の境界線』、共著、河本英夫・佐藤康邦編、白菁社、1999年11月、241頁(担当部分・第八章「音楽化された認識論に向けて Towards Epistemology Musicalized」、pp.165-199.)
- 『ヒューム読本』、共著、中才敏郎編、法政大学出版局、2005年4月、310頁(担当部分・「自由・偶然・必然－ヒューム因果論が遭遇する暗黒」、pp.61-85.)
- Philosophy of Uncertainty and Medical Decisions*. Bulletin of Death and Life Studies. vol.2. 21st Century COE Program DALs. Graduate School of Humanities and Sociology. The University of Tokyo. January 2006. "Bayesianism, Medical Decisions, and Responsibility". pp.15-42.
- 『哲学の歴史 第6巻－知識・経験・啓蒙 18世紀・人間の科学に向かって』、共著、松永澄夫責任編集、中央公論新社、2007年6月、726頁(担当部分・「モリヌクス問題」pp.168-170、「バークリ」pp.171-208.)
- 『岩波講座哲学02 形而上学の現在』、共著、岩波書店、2008年8月、297頁(担当部分・「曖昧性のメタフィジックス」、pp.187-212.)
- 『生命科学と死生学の共働』、共著、東京大学大学院人文社会系研究科、グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」シンポジウム報告論集、2008年10月、148頁(担当部分・「はしがき：「氏」と「育ち」」など)
- 『子どもの難問－哲学者の先生、教えてください!』、野矢茂樹編著、中央公論新社、2013年11月(担当部分・「人間は特別だけど、どんな動物も同じく特別」、pp.49-51、「ひとりぼっち」な人なんて本当は存在しない」、pp.132-134)
- 『しあわせになるための「福島差別」論』、池田香代子・清水修二・開沼博・野口邦和・児玉一八、松本春野編著、かもがわ出版、2018年1月(担当部分・「「である」論を侵襲する「べき」観－放射線被曝をめぐる混乱の源泉－」、pp.35-45.)
- 『科学リテラシーを磨くための7つの話』、共著、児玉一八・小波秀雄・高野徹・高橋久仁子・ナカイサヤカ・名取宏との共著、あけび書房、2022年3月、181頁(担当部分・第5章「倫理とリスクと予防と前進と」、pp.104-128.)

論文

- 「ヒュームの時空論」(『論集』Ⅲ、東京大学文学部哲学研究室、1985年1月、pp.146-158.)
- 「ヒュームの人格同一性議論」(『論集』Ⅳ、東京大学文学部哲学研究室、1986年1月、pp.116-128.)
- 「ヒュームと同一性の問題」(『イギリス哲学研究』第9号、日本イギリス哲学会、1986年4月、pp.15-24.)
- 「バークリに於ける視覚と触覚」(『論集』Ⅴ、東京大学文学部哲学研究室、1987年1月、pp.96-108.)
- 「苦痛と人格－ロックの行為論について」(『論集』Ⅵ、東京大学文学部哲学研究室、1987年12月、pp.87-99.)
- 「因果と神の存在証明－ヒュームの「意図からの証明」批判について」(『哲学』No.39、日本哲学会、1989年4月、pp.95-106.)
- 「因果と人格－ヒューム正義論からの接近の試み」(『近代哲学論叢』哲学雑誌第104巻第776号、哲学会、1989年10月、pp.36-54.)
- 「『視覚新論』とバークリ哲学－神・身体・同一性」(訳書『視覚新論 付：視覚論弁明』所収の解説Ⅰ、勁草書房、1990年11月、pp.197-223.)
- 「ロックとライブニッツにおける生得概念」(『白山哲学』第26号、東洋大学文学部哲学研究室、1992年3月、pp.43-96.)
- 「道具としての普遍」(『白山哲学』第27号、東洋大学文学部哲学研究室、1993年3月、pp.120-141.)
- 「因果の時間的方向について」(『白山哲学』第27号、東洋大学文学部哲学研究室、1993年3月、pp.142-168.)
- 「「グルー」と規則性の問題」(訳書『パラドックスの哲学』所収の訳者試論、勁草書房、1993年4月、pp.317-368.)

- 「「見ること」における因果性 —バークリ視覚論からの考察」 (『imago』第5巻第2号、青土社、1994年2月、pp.126-134.)
- 「因果と探究の行為」 (『白山哲学』第28号、東洋大学文学部哲学研究室、1994年3月、pp.83-111.)
- "Vagueness and Our Linguistic Activity" (*Hakusan Tetsugaku* 29, Department of Philosophy, Faculty of Literature, Toyo University, March 1995, pp.i-xxix.)
- 「『象徴的効用』の効用」 (『imago』第6巻第8号、青土社、1995年8月、pp.242-245.)
- "Berkeley on Practical Spirit" (*Philosophical Studies* XIV, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 1996, pp.1-17.)
- 「キルケニーとバークリ」 (『都市と思想家』I、法政大学出版局、1996年7月、pp.72-91.)
- 「ライプニッツ人格論素描」 (『論集』第15号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、1997年3月、pp.42-69.)
- 「連合と記述のはざまに」 (文部省科学研究費研究成果報告書『存在論・言語論・行為論 —その歴史的・体系的交錯の諸相』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、1997年3月、pp.41-54.)
- "The Emergence of Person" (*Philosophical Studies* XVI, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 1998, pp.18-40.)
- "Of Contingency" (*Philosophical Studies* XVII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 1999, pp.1-13.)
- "Hume and Three Concepts of Cause" (*Philosophical Studies* XVIII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2000, pp.33-49.)
- "Negative Relevance in Probabilistic Causality" (文部省科学研究費研究成果報告書『知識と技術をめぐる概念的研究 —基礎的哲学研究と現代的課題との架橋』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2000年3月、pp.1-27.)
- "A Note on a Probabilistic Approach to the Grue Problem" (*Philosophical Studies* XIX, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2001, pp.64-71.)
- 「死の所有(上) —「死刑」という不可能性からの倒錯」 (『思想』第923号、岩波書店、2001年4月、pp.4-28.)
- 「死の所有(下) —「死刑」という不可能性からの倒錯」 (『思想』第924号、岩波書店、2001年5月、pp.94-107.)
- 「生と死の『分離』と『別離』 —認識と死の連関について」 (東京大学公開講座73『分ける』所収、東京大学出版会、2001年5月、pp.173-200.)
- 「生命倫理における「主体」 —胎児、代理母、クローン、そして死にゆく人」 (『応用倫理・哲学論集』第1号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2002年3月、pp.1-45.)
- 「「殺人」試論」 (『論集』第20号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2002年3月、pp.51-79.)
- "A Consideration on Freedom and Necessity" (科学研究費補助金研究成果報告書『西洋哲学史全体の統一的理解の研究』、2003年1月、pp.45-49.)
- 「「死ぬ権利」の欺瞞」 (『死生学研究』2003年春号、東京大学大学院人文社会系研究科、2003年3月25日、pp.36-68.)
- "The Chance of Hume's Freedom" (*Philosophical Studies* XXI, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2003, pp.1-18.)
- "Remarks on the Problem of Old Evidence in Bayesian Epistemology" (*Philosophical Studies* XXII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 25 March 2004, pp.41-58.)

- 「ウィリアムソン哲学の知識第一説 ―認識説・反明輝性・証拠的条件づけ」
 (『哲学研究論集』第1号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、
 2004年3月31日、pp.1-17.)
- 「ヒューム因果論の源泉 ―他者への絶え間なき反転」(訳書『人間知性研究』所収の
 解説、法政大学出版局、2004年5月、pp.227-278.)
- "A Note on Abortion and the Sorites Paradox" (*The Journal of Applied Ethics and
 Philosophy*, Vol. 2, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and
 Sociology, The University of Tokyo, December 2004, pp.1-9.)
- "Does Probability Collapse or Retroact?" (*Philosophical Studies* XXIII, Department of
 Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 11
 March 2005, pp.19-53.)
- 「曖昧性の浸潤 ―ソライティーズの因果説の試み」(『哲学研究論集』第2号、
 東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2005年3月31日、pp.1-42.)
- 「歴史認識における因果と確率」
 (『哲学』No.56、日本哲学会、2005年4月、pp.42-62.)
- 「ベイズ的認識論の可能性 ―医療的意思決定を視野に入れて」(『思想』第976号、
 岩波書店、2005年8月、pp.106-124.)
- 「自然主義的認識論のゆらぎ ―制度と曖昧性をめぐる考察」(『自然主義と反自然
 主義』、哲学雑誌第120巻792号、哲学会、有斐閣、2005年10月、pp.1-28.)
- 「「ソライティーズ・パラドックス」をめぐる確率と因果」(『論集』第24号、
 東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2006年3月、pp.20-39.)
- "Institutional Aspects of Knowledge" (科学研究費補助金基盤研究(B)(1431002)研究成果
 報告書『事実・行為・規範をめぐる知識の実践的意義の研究 ―「自然と人為」の
 対比についての哲学的再検討』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、
 2006年3月、pp.68-76.)
- 「ベイジアン・ネットとシンプソンのパラドックス ―「確率的因果」についての
 一つの覚え書き」(『哲学研究論集』第3号、東京大学大学院人文社会系研究科
 哲学研究室、2006年5月、pp.1-21.)
- 「不確実性の認識論 ―確率・因果・曖昧性をめぐって」(『哲学の探求』第33号、
 哲学若手研究者フォーラム、2006年5月、pp.23-37.)
- 「音楽化された認識論 ― interlude ―」(『創文』第494号、創文社、2007年1月、
 pp.1-5.)
- "Remarks on Epistemology Musicalized" (*Philosophical Studies* XXV, Department of
 Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27
 March 2007, pp.1-12.)
- 「動物たちの叫び ―「動物の権利」についての一考察」(『応用倫理・哲学論集』
 第3号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2007年3月、pp.1-43.)
- 「ジョン・ロックと「所有すること」の謎」(中公クラシックス・宮川透訳『ロック
 統治論』所収の解説、中央公論新社、2007年9月、pp.1-23.)
- 「境界線事例に対する「真理値グラット」アプローチ」(『哲学研究論集』第4号、
 東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2007年9月、pp.1-21.)
- 「動物実験と Animal Rights」(『ヒトと動物の関係学会誌』第19号、ヒトと動物の
 関係学会、2007年11月、pp.10-14.)
- 「個人と人格との相克 ―刑事責任に見る近代の自律的人間観の陥穽とその超克」(付：
 韓国語訳、金光来訳)(『論集』第26号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学
 研究室、2008年3月、pp.38-53.)
- 「生命現象における決定性と偶然性 ―遺伝子決定論から自然選択／遺伝的浮動の対比
 まで―」(『哲学研究論集』第5号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学
 研究室、2008年10月、pp.1-64.)
- "Wittgenstein and Meaning as Cause: A Philosophically 'Uncertain' Investigation"
 (*Philosophical Studies* XXVII, Department of Philosophy, Graduate School of
 Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2009, pp.1-8.)

- "Plato on Moral Dilemmas: On Schofield's arguments in his 'The Rule of Knowledge'" (*Philosophical Studies* XXVII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2009, pp.9-13.)
- "The Paradox of a Dead Person" (*The Journal of Applied Ethics and Philosophy*, Vol.4, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, July 2009, pp.1-15.)
- "Vagueness of Free Will" (*Proceedings of The 22th World Congress of Philosophy 2008 Proceedings Vol. 15 Metaphysics*, September 2009, pp.53-58.)
- "Freedom and Subvaluationism" (科学研究費補助金基盤研究(B)(118320005)研究成果報告書『知識・行為・制度をめぐる「因果性」と「志向性」の哲学的解明』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2010年3月、pp.6-15.)
- 「生命現象に基づく「自由」理解についての一考察」(『哲学研究論集』第6号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2010年3月、pp.1-27.)
- "Counterfactuals and Degrees of Truth" (*Philosophical Studies* XXVIII, Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 27 March 2010, pp.1-8.)
- 「原因と結果と自由と」(中公クラシックス・土岐邦夫・小西嘉四郎訳『ヒューム 人性論』所収の解説、中央公論新社、2010年7月、pp.1-24.)
- 「戦争をめぐる事実と規範」(『戦争と戦没者をめぐる死生学』、東京大学大学院人文社会系研究科グローバル COE「死生学の展開と組織化」ワークショップ報告論集、2010年9月、pp.106-114.)
- 「触法精神障害者についての医療診断をめぐる不確実性」(『論集』第29号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2011年3月、pp.23-39.)
- 「死んだらおしまい 一形而上学と死生学と応用哲学と」(『応用哲学を学ぶ人のために』戸田山和久・出口康夫編に所収、世界思想社、2011年5月、pp.84-95.)
- 「ヒューム自由論の三つのスキャンダル」(『思想』第1052号、岩波書店、2011年12月、pp.334-355.)
- 「日本における低線量被曝論争の構図」(『東アジアの死生学 IV』、東京大学グローバル COE「死生学の展開と組織化」、2012年3月、pp.38-58)
- 「期待効用の概念をめぐる覚え書き 一原発事故と低線量被曝問題に寄せて」(『論集』第30号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2012年3月、pp.1-33.)
- 「放射能問題をめぐる不確実性と予防原則 一災害時における生と死を考える一」(『「しぶとい都市」の作り方 一脆弱性と強靱性の都市システム一』(家田仁・朴乃仙編)所収、東京大学グローバル COE プログラム「都市空間の持続再生学の展開」都市の脆弱性研究グループ、2012年11月30日、pp.157-160)
- "Uncertainty and the Precautionary Principle concerning Problems about Radiation Exposure: A Thought on Life and Death in a Disaster" (In *Vulnerability and Toughness in Urban Systems*, eds by H. Ieda & N. Park, The "Urban Vulnerability" Study Group, Center for Sustainable Urban Regeneration, The University of Tokyo, 30 November 2012, p.161)
- 「放射能問題の被害性 一哲学は復興に向けて何を語れるか一」(国際哲科学研究別冊1『ポスト福島哲学』、東洋大学国際哲学研究センター編、2013年3月31日、pp.19-47.)
- 「音楽化された認識論」の展開 一リフレイン、そしてヴァリエーションへ一」(『論集』第31号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2013年3月31日、pp.1-17.)
- "Hybrid Nature of Causation" (In *Ethics for the Future of Life: Proceedings of the 2012 Uehiro-carnegie-Oxford Ethics Conference*, ed by T. Uehiro, the Oxford Uehiro Center for Practical Ethics, University of Oxford, June 2013, pp.60-80.)
- 「「ない」ことの因果」(『思想』第1073号「思想の言葉」、岩波書店、2013年9月、pp.2-6.)
- 「被害・リスク・予防、そして合理性」(『情報とリスク 一ポスト3.11の哲学一』、哲学雑誌第128巻800号、哲学会、有斐閣、2013年10月、pp.75-105.)
- "Noi perspective asupra dezbaterei legate de pedeapsa cu moartea" (In *Filosofia Japoneză*

- Azi*, ed by S. Majima and E-M. Socaciu, editiura universității din bucuresti, 2013, pp.197-226.)
- 「死刑論再考 –自由・責任・不確実性–」 (『哲学研究論集』第7号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2013年12月、pp.1-37.)
- 「放射線被曝をめぐる混迷についての再考 –『放射能問題に立ち向かう哲学』を振り返りつつ–」 (科学研究費補助金基盤研究(B)(22320003)研究成果報告書『物質・生命・人格をめぐる哲学と自然科学の交差に関する理論的および実践的研究』、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2014年3月、pp.7-18.)
- "Beebe on Hume's inductive scepticism" (*Journal of International Philosophy No.3*, International Research Center for Philosophy, Toyo University, March 2014.)
- "Strawson on Locke's Theory of Personal Identity" (*Philosophical Studies Vol.32*. The Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2014, pp.1-9.)
- 「経験論の源流 –ベーコン哲学から広がりいづる眺望」 (中公クラシックス・成田成寿訳『ベーコン 随筆集』所収の解説、中央公論新社、2014年9月、pp.1-24.)
- 「「いのちは大切」、そして「いのちは切なし」 –放射能問題に潜む欺瞞をめぐる哲学的再考–」 (『論集』第33号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2015年3月、pp.1-48.)
- 「断章 いのちは切なし –人と動物のはざま–」 (『「いのち」再考』、哲学雑誌第130巻802号、哲学会、有斐閣、2015年10月、pp.46-74.)
- "An Essay towards an Epistemology of Responsibility: A Probabilistic Approach" (*Philosophical Studies Vol.34*. The Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2016, pp.1-32.)
- "A Philosophical Inquiry into the Confusion over the Radiation Exposure Problem" (*Journal of Disaster Research Vol.11 No.sp*, September 2016, pp.770-779.)
- 「合理性のほころび –リスクの哲学に向けて(1)–」 (『論集』第35号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、2017年3月31日、pp.1-19.)
- "The Death Penalty Debate: Four Problems and New Philosophical Perspectives" (*Journal of Practical Ethics Vol 5, Issue 1*, June 2017, pp.53-80.)
- "Normativity, probability, and meta-vagueness" (*Synthese*, Springer, vol.194, No.10, October 2017, pp.3879-3900, DOI:10.1007/s11229-015-0950-7.)
- "Uncertain Responsibility for Gene Manipulation". (*Philosophical Studies Vol.36*. The Department of Philosophy, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, March 2018, pp.1-24.)
- 「震災関連死の原因について」 (『<ポスト3.11>メディア言説再考』第4章、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ編著、法政大学出版局、2019年3月、pp.81-112.)
- 「高校新科目「公共」についての哲学的覚え書き」 (『思想』第1139号、岩波書店、2019年3月、pp.139-164.)
- 「死の害についての「対称性議論」をめぐる –因果概念に照らしつつ–」 (『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』第9号、武蔵野大学教養教育リサーチセンター、2019年3月、pp.105-125.)
- 「リズムの時間遡及的本性についての哲学ノート –「音楽化された認識論」への小さなインタールード–」 (『フィルカル』Vol.4, No.1、株式会社ミュー、2019年3月、pp.6-15.)
- 「確率のリアリティ」 (『現代哲学のキーコンセプト 確率』(佐竹佑介訳)解説として所収、岩波書店、2019年6月、pp.193-204.)
- 「非合理性と合理性の伸縮」 (『現代哲学のキーコンセプト 非合理性』(鴻浩介訳)解説として所収、岩波書店、2019年7月、pp.189-198.)
- 「「自由意志」を論じるとはどういうことか」 (『現代哲学のキーコンセプト 自由意志』(高崎将平訳)解説として所収、岩波書店、2019年9月、pp.141-160.)
- 「「真理である」ことの真理」 (『現代哲学のキーコンセプト 真理』(野上志学訳)解説として所収、岩波書店、2019年11月、pp.217-228.)

- 「イノベーションは何のために - SDGs を見据えた哲学的考察」（『人間会議』2019年冬号、事業構想大学院大学出版部、2019年12月、pp.186-191.）
- 「因果関係は存在するのか」（『現代哲学のキーコンセプト 因果性』（相松慎也訳）解説として所収、岩波書店、2019年12月、pp.199-214.）
- 「ためらい、浮動しゆく思考—自分が自分でなくなるような瞬間の響き」（『因果・動物・所有—ノ瀬哲学をめぐる対話』宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝編、武蔵野大学出版会、pp.357-388.）
- 「ロック言語論と「プライベート性」の問題」（『龍谷哲学論集』第34号、龍谷哲学会、2020年1月、pp.3-35.）
- 「バークリの数学論—幾何と算術のゆらぎをめぐる—」（『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』第10号、武蔵野大学教養教育リサーチセンター、2020年3月、pp.79-94.）
- 「「思考実験」から「知識の新因果説」へ—ウィリアムソンの議論に即して—」（『イギリス哲学研究』第43号「会長講演」、日本イギリス哲学会、2020年3月、p.5-21.）
- 「死者のかすかな存在性」（『añjali』第39号、親鸞仏教センター、2020年6月、pp.10-14.）
- 「放射線被ばく問題から新型コロナウイルス問題へ—合理的に認識する責任—」（『エネルギーレビュー』vol.474、2020年7月号、pp.38-42.）
- 「分析哲学の興亡」（『世界哲学史8—現代グローバル時代の知』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020年8月、pp.17-50.）
- 「放射線被ばく問題と「信念の倫理」」（『ATOMOS』日本原子力学会誌、vol.63、2021年2月、pp.4-5.）
- 「「信念の倫理」研究序説」（『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』第11号、武蔵野大学教養教育リサーチセンター、2021年3月、pp.29-46.）
- 「因果と応報—哲学の視点から—」（『心』日曜講演会講演集、第39集、武蔵野大学、2021年4月、pp.29-47.）
- 「コロナ時代の無常観—「予防文脈」と「危機文脈」のずれ違いを考える—」（『朝日新聞』digital「論座」、2021年6月13日）
- 「「見ること」と「見ないこと」の同時性—新型コロナ感染症問題についての哲学的覚え書き—」（「「コロナ前」の暮らしを取り戻そう！市民の会」、<https://info423665.wixsite.com/koewoageyo2021/blog>、2021年8月19日）
- "The death penalty and a Lockean impossibilism". (In *Locke on Knowledge, Politics and Religion*, eds. K. Shimokawa and P. Anstey, Bloomsbury, October 2021, pp.145-166.)
- 「「鳥獣害」を被る人々に動物倫理は何を語れるか」（『法の理論 40』長谷川晃・酒匂一郎・河見誠・中山竜一編に所収、成文堂、2021年12月、pp.145-169.）
- 「原発問題、信念の倫理、そして幸福」（『エネルギーレビュー』vol.492、2021年12月号、pp.38-41.）
- 「「信念の倫理」と非難相当性の問題—「信念の倫理」研究序説(2)」（『武蔵野大学人間科学研究年報』第11号、武蔵野大学人間科学研究所、2022年3月、pp.21-38.）
- 「ゲノム編集問題をめぐる害と非同一性—ウィルキンソンの議論に寄せて—」（『人のゲノム編集をめぐる倫理規範の構築を目指して』、田坂さつき・香川知晶編、知泉書館、第6章、2022年3月、pp.125-138.）
- 「トリアージと人権に関する覚書」（『コロナ禍とトリアージを問う—社会が命を選別するということ—』、土井健司・田坂さつき・加藤泰史編、青弓社、第6章、2022年5月、pp.145-188.）
- 「人と動物をめぐる揺らぎと対等性についての一考察」（『現代思想』Vol.50-7、青土社、2022年6月号、pp.137-144.）
- 「「倫理の公理化」の試みから浮かび上がる謎」（『数学セミナー』Vo.61-8-730、日本評論社、2022年8月号、pp.40-46.）
- "Risk, Precaution, and Causation". *Tetsugaku: International Journal of the Philosophical Association of Japan* (ISSN 2432-8995) Vol.6. October 2022, pp.22-53.
- 「因果関係をめぐる無限後退—ヒューム因果論とキャロル後退議論を交差させつつ—」

- (『分析哲学を問いなおす』、哲学雑誌第 136 巻 809 号、哲学会、有斐閣、2022 年 10 月、pp.72-109.)
- 「SDGs を哲学するー考えるための例題集としてー」(『SDGs の基礎 ～みずから学ぶ世界の課題』、武蔵野大学教養教育部会編著、武蔵野大学出版会、第Ⅱ部第 6 章、2023 年 3 月 13 日、pp.110-134.)
- 「「死刑不可能論」再訪」(『武蔵野大学 認知行動療法研究誌』第 4 号、武蔵野大学認知行動療法研究所、2023 年 3 月、pp.11-32.)
- 小論・書評・項目執筆など
- 「因果・応報・目的」(『創文』第 295 号、創文社、1988 年 12 月、pp.10-13.)
- 松永澄夫編・勁草書房『私というものの成立』書評(『言語』24 巻第 2 号、大修館書店、1995 年 2 月、p.139.)
- 「知識・創造・人格」(『創文』第 364 号、創文社、1995 年 4 月、pp.6-9.)
- フランク・ラムジー著・勁草書房『ラムジー哲学論文集』書評(『週間読書人』、1996 年 9 月 13 日、p.4.)
- 「勇者アキレスの虚しい走り」(『なごみ』第 217 号、淡交社、1998 年 1 月、pp.68-69.)
- 「大人になる胸の高まり」(『なごみ』第 218 号、淡交社、1998 年 2 月、pp.104-105.)
- 「記憶」(『新・哲学講義④「わたし」とは誰か』、岩波書店、1998 年 2 月、pp.196-197.)
- 「自己言及性」(『新・哲学講義④「わたし」とは誰か』、岩波書店、1998 年 2 月、pp.204-205.)
- 「人格」(『新・哲学講義④「わたし」とは誰か』、岩波書店、1998 年 2 月、pp.208-209.)
- 「正直な嘘が招く災い」(『なごみ』第 219 号、淡交社、1998 年 3 月、pp.104-105.)
- 「感覚与件」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、pp.274-275.)
- 「ゲティア問題」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、pp.436-437.)
- 「現象主義」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、p.465.)
- 「錯覚論法」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、pp.572-573.)
- 「『人知原理論』」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、pp.831-832.)
- 「存在するとは知覚されること」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、pp.993-994.)
- 「ノージック」(『哲学・思想事典』、岩波書店、1998 年 3 月、p.1253.)
- 「カラスの黒さを確かめる奇妙な観察」(『なごみ』第 220 号、淡交社、1998 年 4 月、pp.104-105.)
- 「エメラルドの変幻する輝き」(『なごみ』第 221 号、淡交社、1998 年 5 月、pp.104-105.)
- 「「すべて」に潜む破滅の誘惑」(『なごみ』第 222 号、淡交社、1998 年 6 月、pp.104-105.)
- 「生きつつ死する魔界の猫」(『なごみ』第 223 号、淡交社、1998 年 7 月、pp.104-105.)
- 「過去を変える賞金稼ぎの離れ業」(『なごみ』第 224 号、淡交社、1998 年 8 月、pp.104-105.)
- カール・R・ポパー著・未来社『フレームワークの神話』書評(『週間読書人』、1998 年 8 月 28 日、p.4.)
- 「『人』を消し去る機械仕掛けの自由」(『なごみ』第 225 号、淡交社、1998 年 9 月、pp.104-105.)
- 「人気者を陥れる投票の怪」(『なごみ』第 226 号、淡交社、1998 年 10 月、pp.104-105.)
- 「抜き打ち試験の不可能な予告」(『なごみ』第 227 号、淡交社、1998 年 11 月、pp.104-105.)
- 伊藤邦武著・勁草書房『人間的な合理性の哲学』書評(『科学哲学』第 31 巻第 2 号、日本科学哲学会、1998 年 11 月、pp.113-116.)

- 「『パラドックスな瞬間』のパラドックス」 (『なごみ』第 228 号、淡交社、1998 年 12 月、pp.104-105.)
- 三浦永光著・未来社『ジョン・ロックの市民的世界—人権・知性・自然観』書評 (『イギリス哲学研究』第 22 号、日本イギリス哲学会、1999 年 3 月、pp.95-98.)
- 「『人間知性論』」 (『政治学事典事典』、弘文堂、2000 年 11 月、p.860.)
- 「認識論」 (『政治学事典事典』、弘文堂、2000 年 11 月、p.861.)
- 入不二基義著・春秋社『相対主義の極北』書評 (『週間読書人』、2001 年 4 月 20 日、p.4.)
- 「偶然性」 (『事典 哲学の木』、講談社、2002 年 3 月、pp.279-281.)
- 「ゼノンのパラドックス」 (『事典 哲学の木』、講談社、2002 年 3 月、pp.656-657.)
- 「パラドックス」 (『事典 哲学の木』、講談社、2002 年 3 月、pp.792-794.)
- 「殺人をめぐる人間の尊厳」 (『多分野交流プロジェクト研究ニューズレター』第 36 号、東京大学大学院人文社会系研究科、2002 年 3 月)
- 「意識」 (『哲学・思想翻訳語事典』、論創社、2003 年 1 月、p.10.)
- 「抽象」 (『哲学・思想翻訳語事典』、論創社、2003 年 1 月、p.201.)
- 「観念論」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.138-139.)
- 「帰納と演繹」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.146-147.)
- 「経験論」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.206-207.)
- 「形而上学」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.208-210.)
- 「实在論と唯名論」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.289-291.)
- 「真理」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.385-387.)
- 「知」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.462-464.)
- 「哲学」 (『歴史学事典』第 11 巻「宗教と学問」、弘文堂、2004 年 2 月、pp.479-481.)
- 鶴田静著・中公文庫『ベジタリアンの文化誌』書評 (『DALS ニューズレター』No.5、東京大学 21 世紀 COE プログラム生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築、2004 年 4 月 1 日、p.3.)
- トマス・リード著・知泉書館『心の哲学』書評 (『週間読書人』、2004 年 4 月 30 日、p.3.)
- 「『人間知性論』」 (『現代思想』9 月臨時増刊号「ブックガイド 60」、青土社、2004 年 9 月、pp.52-55.)
- Timothy Williamson, *Knowledge and its Limits*, Oxford University Press 書評 (『イギリス哲学研究』第 28 号、日本イギリス哲学会、2005 年 3 月、pp.114-116.)
- 「因果と確率の連関をめぐる考察」 (『日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集—知識社会におけるデータ・サイエンス』、長岡技術科学大学、2005 年 8 月、pp.334-335.)
- 富田恭彦著・世界思想社『観念説の謎解き』書評 (『週間読書人』、2006 年 3 月 17 日、p.3.)
- 「IV. 不確実性の認識論—確率と曖昧性—」 (第 38 回大会(2005 年)ワークショップ記録、『科学哲学』39-1、日本科学哲学会、2006 年 6 月、pp.104-106.)
- 「後悔、謝罪、そして安らい」 (『多分野交流プロジェクト研究ニューズレター』第 53 号、東京大学大学院人文社会系研究科、2006 年 11 月)
- 「因果」 (『現代倫理学事典』、弘文堂、2006 年 12 月、pp.55-57.)
- 「知」 (『現代倫理学事典』、弘文堂、2006 年 12 月、pp.588-590.)

- 「必然性」(『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年12月、pp.711-712.)
- 「ロック、ジョン」(『現代倫理学事典』、弘文堂、2006年12月、pp.890-891.)
- 「「物語り」の不確実な対立 - 『シリーズ物語り論1: 他者との出会い』によせて」
(『公共的良識人』第187号、京都フォーラム、2007年6月1日、pp.6-7.)
- 「人格」(『イギリス哲学・思想事典』、日本イギリス哲学会編、研究社、2007年11月、pp.293-296.)
- 「モリヌークス問題」(『イギリス哲学・思想事典』、日本イギリス哲学会編、研究社、2007年11月、pp.507-508.)
- 戸田剛文著・法政大学出版局『パークリ - 観念論・科学・常識 -』書評(『イギリス哲学研究』第32号、日本イギリス哲学会、2009年3月、pp.111-113)
- 伊勢田哲治著・名古屋大学出版会『動物からの倫理学入門』書評(『科学哲学』第43巻第1号、日本科学哲学会、2010年7月、pp.106-109.)
- 「グローバル化と日本の哲学」(『UP』No.464、東京大学出版会、2011年6月、pp.1-6.)
- 「低線量被曝問題をめぐる論争 - 緊急討論会「震災、原発、そして倫理」を開催して -」
(『科学』Vol.81, No.9、岩波書店、2011年9月、pp.845-847.)
- 「座談会・デイヴィッド・ヒュームの思想」(『思想』第1052号、岩波書店、2011年12月、pp.9-45.)
- 「デイヴィッド・ヒューム・エリオット宛書簡三通・解題」(『思想』第1052号、岩波書店、2011年12月、pp.298-302.)
- 「第2報告 死の被害性」(『イギリス哲学研究』第35号、日本イギリス哲学会、緊急セッション「東日本大震災のなかで - イギリス哲学研究からのメッセージ」、2012年3月20日、pp.170-171.)
- 「ヒューム」(『現代社会学事典』、弘文堂、2012年12月、p.1070.)
- 「ロック」(『現代社会学事典』、弘文堂、2012年12月、p.1362.)
- 「哲学と多分野交流 - 3.11から東大ハチ公物語まで」(『多分野交流プロジェクト研究ニューズレター』第73号、東京大学大学院人文社会系研究科、2013年12月)
- Galen Strawson, *Locke on Personal Identity: Consciousness and Concernment* 書評
(『イギリス哲学研究』第37号、日本イギリス哲学会、2014年3月、pp.151-154.)
- 「第3報告 パークリの「能動」/受動」が懐胎する積極的ゆらぎ - 『三対話』に発する数学観を手掛かりに -」(『イギリス哲学研究』第37号、日本イギリス哲学会、シンポジウムI「パークリ『三対話』刊行300年」、2014年3月、pp.171-173.)
- 「「東大ハチ公物語」の不思議」(『UP』No.511、東京大学出版会、2015年5月、pp.1-6.)
- 「「福島」点景」(『多分野交流プロジェクト研究ニューズレター』第76号、東京大学大学院人文社会系研究科、2016年2月)
- 「福島はあなた自身~哲学からのメッセージ~」[第272回定例懇談会講演要旨](『原子力システムニュース』、Vol.29, No.1、原子力システム研究懇話会、2018年6月)
- 「シンポジウム報告「作品の美学」」(『ライプニッツ形而上学と作品の美学』、哲学雑誌第132巻804-805号合冊、哲学会、有斐閣、2018年10月、pp.211-214.)
- 「佐々木拓『ジョン・ロックの道徳哲学』書評」(『イギリス哲学研究』第42号、日本イギリス哲学会、2019年3月、pp.67-69.)
- 「原子力災害と「いのちの保全」 - 哲学の視点から」(『ATOMOS』日本原子力学会誌、vol.62, 2020年3月、pp.114-115.)
- 「高校新科目『公共』について - 哲学の視点から -」(『都倫研紀要』第58集、東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会、2020年3月、pp.20-26.)
- 「インフラの恩恵は忘れられがち」(『エネルギーレビュー』vol.476、2020年9月号、巻頭インタビュー、p.1.)
- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [1] : 目に見えない脅威との共存 闇雲な恐怖心を解放する視点とは」(月刊『先端教育』、インタビュー記事、2020年9月号、先端教育機構、pp.54-55)
- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [2] : 音声言語からみる教育のニューノーマル 五感で感じる講義」(月刊『先端教育』、2020年10月号、先端教育機構、pp.84-85.)

- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [3] : デス・エデュケーション 「死」とは何か、「死者」とは何か」 (月刊『先端教育』、2020年11月号、先端教育機構、pp.88-89.)
- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [4] : トロリー問題にみる「接触」の核心 触れあうことの喜び」 (月刊『先端教育』、2020年12月号、先端教育機構、pp.76-77.)
- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [5] : 「いのちは大切」をめぐって教育者が追究すべき視点」 (月刊『先端教育』、2021年1月号、先端教育機構、pp.84-85.)
- 「死が教える「いのち」の価値と教育 [6] : 哲学的思考がいざなう日常の底にある不可思議な安らぎ」 (月刊『先端教育』、2021年2月号、先端教育機構、pp.86-87.)
- 「「親のせい」の謎」 (『ニューサポート 高校国語』、Vol.36、2021年秋号、pp.8-9.)
- 「一回性の哲学」 (土浦一高『進修同窓会会報』第78号、土浦一高進修同窓会、2021年12月、p.6.)
- 「「真理の形而上学」と「発話の認識論」ーウィリアムソン哲学の展開ー」 (ティモシー・ウィリアムソン『テトラログ』片岡宏仁訳、2022年1月、勁草書房、解説として所収、pp.201-217.)
- 「あの苦い経験を、繰り返さないために」 (『家の光』第98巻第3号、2022年3月号、インタビュー記事、pp.27-29.)
- 「無知の自覚目指す哲学」 (『茨城新聞』2022年4月9日、「茨城論壇」、第13面)
- 「『いのちとリスクの哲学ー病災害の世界をしなやかに生き抜くために』をめぐって」 蝶名林亮氏との対談、『フィルカル』Vol.7, No.1. 株式会社ミュー、2022年4月、p.144-180.
- 「交差するウソとホント」 (『茨城新聞』2022年6月11日、「茨城論壇」、第13面)
- 「同時性意識で視野拡大」 (『茨城新聞』2022年8月13日、「茨城論壇」、第13面)
- 「法則なのか法律なのか」 (『茨城新聞』2022年10月15日、「茨城論壇」、第17面)
- 'Book Review of *THE ANATOMY OF LONELINESS: Suicide, Social Connection, and the Search for Relational Meaning in Contemporary Japan* | By Chikako Ozawa-de Silva'. Pacific Affairs, October 2022 Online.
- 「音楽化された認識論」と意味の律動」 (『図書』第887号、2022年11月号、岩波書店、pp.18-23.)
- 「留守電約束いつ成立？」 (『茨城新聞』2022年12月17日、「茨城論壇」、第15面)
- 「人は個人かパーソンか」 (『茨城新聞』2023年3月4日、「茨城論壇」、第13面)

翻訳

- 『哲学的評註』 G. バークリ著、抄訳、季刊『哲学』第10号、哲学書房、1990年3月、38-61頁
(原題・G.Berkeley : *Philosophical Commentaries*,1707-8, in *The Works of George Berkeley*,ed.by A.A.Luce & T.E.Jessop, Thomas Nelson and Sons Ltd., vol.1, 1948)
- 『視覚新論 付：視覚論弁明』 G. バークリ著、全訳、下條信輔・植村恒一郎両氏との三名による共訳、勁草書房、1990年11月、196頁+ xviii頁、担当部分・pp.100-187 および pp.194-196
(原題・G.Berkeley : *An Essay towards A New Theory of Vision*,1709 & *The Theory of Vision Vindicated and Explained*,1733, in *The Works of George Berkeley*, ed.by A.A.Luce & T.E.Jessop, Thomas Nelson and Sons Ltd., vol.1, 1948)
- 『ホワイトヘッド ー秩序への冒険』 P.G.クンツ著、全訳、紀伊國屋書店、1991年2月、290頁+ xxii頁
(原題・P.G.Kuntz : *Alfred North Whitehead*, Twayne Publishers, 1984)
- 『パラドックスの哲学』 R.M.セインズブリー著、全訳、勁草書房、1993年4月、315頁+ xxx頁
(原題・R.M.Sainsbury : *Paradoxes*, Cambridge University Press, 1988)
- 『人間知性研究 付：人間本性論摘要』 D. ヒューム著、全訳、斎藤繁雄氏との共訳、法政大学出版局、2004年5月、285頁+ vii頁
(原題・D. Hume: *An Enquiry concerning Human Understanding*, 1748, Oxford University Press, ed. by T. L. Beauchamp, 1999)
- 『哲学的スキルを磨く 知的思考術』 ジーナ・ヒッツ著、一ノ瀬正樹監訳、青木陽子訳、

Newton Press. 2022 年 10 月

講演・口頭発表・コメンテータ

- 「ヒュームの同一性議論」（日本イギリス哲学会第 9 回研究大会、甲南大学、1985 年 3 月 29 日）
- 「バークリにおける能動的な精神」（日本哲学会第 46 回大会、慶應義塾大学、1987 年 5 月 24 日）
- 「ヒュームと神の存在の問題」（日本哲学会 47 回大会、岡山大学、1988 年 5 月 22 日）
- 「ロックにおける人格と権利」（哲学会第 28 回研究発表大会、東京大学、1989 年 11 月 5 日）
- 「逆向き因果は論理的に不可能か」（科学基礎論学会講演会、大阪市立大学、1991 年 6 月 15 日）
- 「グッドマンの「グルー」と規則性の問題」（第 2 回白山哲学会、東洋大学、1992 年 10 月 8 日）
- 「「esse is percipi」と実践的精神 —バークリの「観念」を越えて」（日本イギリス哲学会第 19 回研究大会ミニシンポジウム「ジョージ・バークリ」、亜細亜大学、1995 年 3 月 26 日）
- 「ロックにおける人格の概念」（哲学研究会、東京大学教養学部、1995 年 12 月 16 日）
- 「ロック哲学への探究 —人格知識論の着想」（北海道大学、1996 年 9 月 24 日）
- 「連合と記述のはざまに」（第 19 回現象学解釈学研究会シンポジウム「現象学と経験論の系譜」提題、八王子・大学セミナーハウス、1996 年 11 月 30 日）
- 「ロックの人格概念 —意識説と法廷用語説の緊張」（第 8 回西洋哲学史研究会、立命館大学、1997 年 3 月 22 日）
- 「罰せられる人格 —原点ロックからの出発」（日本イギリス哲学会第 21 回研究大会ミニシンポジウム「パーソンと社会」提題、聖心女子大学、1997 年 3 月 30 日）
- 「ヒュームの三つの原因概念」（第 7 回ヒューム研究学会、慶應義塾大学、1997 年 3 月 31 日）
- "Hume's Three Concepts of Cause" (The 24th Hume Conference, Monterey, California, USA, 1 August 1997.)
- 「人格の生成」（哲学会第 36 回研究発表大会シンポジウム「人格の生成」提題、東京大学、1997 年 11 月 2 日）
- 「他律性の暗闇 —ヒューム因果論の根底へ」（第 14 回哲学史研究会、関東学院大学葉山セミナーハウス、2000 年 3 月 31 日）
- 「他者という原因 —ヒューム因果論の深奥へ」（第 11 回ヒューム研究学会、慶應義塾大学、2000 年 9 月 4 日）
- 「生と死の「分離」と「別離」」（第 94 回東京大学公開講座「分ける」、東京大学大講堂（安田講堂）、2000 年 10 月 14 日）
- 「無知とパラドックスへの裂け目 —日常に潜む哲学の謎について」（つくば秀英高等学校文化講演会、2001 年 11 月 15 日）
- 「自由・偶然・必然 —ヒューム哲学から見る問題の深淵」（日本イギリス哲学会第 26 回研究大会シンポジウムⅡ「自由と必然」提題、香川大学、2002 年 3 月 30 日）
- 「原因と結果の迷宮」（日本心理学会第 67 回大会ワークショップ「因果論と因果の心理学」提題、東京大学、2003 年 9 月 13 日）
- 「感覚的知識の謎 —ロック知識論からするプロバビリティ概念の探究」（第 20 回哲学史研究会、金沢大学、2003 年 9 月 14 日）
- 「倫理」（本府省係長研修第一回、人事院人材局研修指導課主催、人事院公務員研修所、2004 年 10 月 13 日）
- "A Decision-Theoretic Approach to Problems of Confirmation: In View of Medical Decision" (Tokyo University International Conference, *Consent and Decision concerning Life and Death, Part 1, The Philosophy of Facing Uncertainty: Epistemic Limits, Probability, and Decision*, The University of Tokyo, Japan, 11 December 2004.)
- 「科学と宗教の密約 —近代自然科学誕生の文脈」（第 18 回慶應義塾図書館貴重書展示

- 会・連続講演会「近代科学の黎明」、丸善丸の内本店、2005年1月29日)
- 「曖昧性の浸潤ーソライティーズの因果説の試み」(第一回研究会、東京大学文学部哲学研究室、2005年4月27日)
- 「歴史認識における因果と確率」(日本哲学会第64回大会シンポジウム「歴史認識と歴史叙述のあいだ」提題、一橋大学、2005年5月21日)
- 「不確実性の認識論ー確率・因果・曖昧性をめぐってー」(2005年度哲学若手研究者フォーラム・テーマレクチャー「認識論はどこへゆく? 2」提題、八王子・大学セミナーハウス、2005年7月30日)
- 「因果と確率の連関をめぐる考察」(日本行動計量学会第33回大会シンポジウム「因果は本当に証明できるのか?」提題、長岡技術科学大学、2005年8月29日)
- 「「ソライティーズ・パラドックス」に現れる段階的变化について」(日本科学哲学会第38回大会ワークショップIV「不確実性の論理ー確率と曖昧性ー」提題、東京大学駒場キャンパス、2005年12月4日)
- 「久米暁『ヒュームの懐疑論』についてのコメント」(第17回ヒューム研究学会、南山大学、2006年9月10日)
- 「原因・結果・理由の迷宮ー確率的因果からの探究ー」(本郷哲学研究会コロキウム「因果論をめぐって」提題、東京大学本郷キャンパス、2006年11月8日)
- 「正常ならざる殺人の連続的広がり」(21世紀COE「死生学の構築」国際シンポジウム「精神医療と触法行為の死生学ー殺人行為をめぐってー」パネル・ディスカッション提題、東京大学本郷キャンパス、2006年12月9日)
- 「確率的因果と「シンプソンのパラドックス」」(京都大学21世紀COE「現代科学・技術・芸術と多元性の問題」第2回「哲学系若手研究者育成プロジェクト」研究会「統計学の哲学と推論」提題、京都大学文学部、2006年12月16日)
- 「動物実験とAnimal Rights」(ヒトと動物の関係学会第13回学術大会シンポジウムI「動物実験を考える」提題、東京大学農学部、2007年3月17日)
- "Meaning as Cause: A Philosophically 'Uncertain' Investigation" (Comments on Professor Horwich's Presentation, "Meaning as Use") (*The International Wittgenstein Workshop at Tokyo, The University of Tokyo, Japan, 2 June 2007.*)
- 「「音楽化された認識論」の展開」(第74回公共哲学京都フォーラム「自己と他者のあい」発題、大阪・中之島リーガロイヤルホテル、2007年6月11日)
- 「個人と人格との相克ー刑事責任に見る近代の自律的人間観の陥穽とその超克」(UT-SNU Forum「人文学の可能性ーその方法と実践」、韓国・ソウル大学、2007年6月25日)
- 「感覚的知識とプロバビリティとの間ーロック知識論のダイナミズムについて」(第1回ジョン・ロック研究会、学習院大学、2007年7月28日)
- 「人類進化について語ること」(死生学ワークショップ「生命科学と死生学の共働」、青木健一氏発表「ネアンデルタールとホモ・サピエンスの交替劇」へのコメント、東京大学文学部、2007年12月1日)
- "Uncertain Responsibility for Gene Manipulation" (*International Conference on Genethics in East Asian and Western Contexts, Hong Kong Baptist University, Hong Kong, 10 December 2007.*)
- "Freedom and Subvaluationism" (*The Second BESETO Conference of Philosophy: Philosophy and East-Asian Thoughts, Peking University, Beijing, 27 December 2007.*)
- "Vagueness of Free Will" (*The XXII World Congress of Philosophy, Seoul National University, Seoul, Korea, 31 July 2008.*)
- "Plato on Moral Dilemmas: Comments on Professor Schofield's arguments in 'The Rule of Knowledge'" (「ギリシア哲学科研究費研究会・M. Schofield先生を招いてーPlato, 第4章と第5章をめぐってー」、東京大学文学部、2008年10月1日)
- "An Epistemology of Responsibility: A Probabilistic Approach" (*Lecture Series: Philosophy and Public Policy, London School of Economics, UK, 17 November 2008.*)
- "A Dilemma over Mentally Disordered Offenders" (*Research Seminars, Department of Philosophy, Durham University, UK, 4 December 2008.*)

- "Uncertainties over Medical Diagnoses of Mentally Disordered Offenders" (*2008 Carnegie Uehiro Oxford Conference*, St Cross College, The University of Oxford, UK, 11 December 2008).
- "Ontological Vagueness and Metaphysics: A Case of Free Will" (*Interdisciplinary Ontology Forum in Japan 09*, Keio University, Tokyo, Japan, 1 March 2009).
- 「戦争をめぐる事実と規範」(死生学ワークショップ「戦争と戦没者をめぐる死生学」、第4セッション「戦争の倫理」での朴政淳氏発表および小林正弥氏発表へのコメント、東京大学文学部、2009年6月6日)
- "Hume's Determinism Undetermined" (*the Lectures of Distinguished Scholar, Seoul National University BK21 Group for Philosophical Education and Research*, Seoul National University, Seoul, Korea, 17 July 2009).
- 「バークリ言語論の謎 —竹中真也氏「自然学から精神と神の形而上学へ」へのコメント—」(日本イギリス哲学会関東部会第83会研究例会、慶應義塾大学日吉キャンパス、2009年7月25日)
- "Counterfactuals and Degrees of Truth: Comments on Professor Timothy Williamson's arguments in 'Knowledge of Counterfactuals'" (The 14th International Meeting of Hongo Metaphysics Club, The University of Tokyo, 2 October 2009.)
- 「エピクロスの死無害説からする死刑論再考」(「ギリシア政治哲学の総括的研究」科研費研究集会、首都大学東京、2009年10月4日)
- 「殺人の被害者とは誰か —死のメタフィジックスの断面—」(第19回白山哲学会、東洋大学、2009年10月24日)
- 「バークリの視覚論から数学論へ」(哲学会第48回研究発表大会シンポジウム「感覚・知覚論再考—バークリ『視覚新論』300年—」提題、東京大学、2009年11月1日)
- "Ontology and Ethics of Killed People" (*The 4th BESETO Conference of Philosophy: The Future of Philosophy in East Asia*, Seoul National University, Seoul, Korea, 7 January 2010).
- 「生命現象と自由」(第10回東京大学生命科学シンポジウム、東京大学本郷キャンパス安田講堂、2010年5月1日)
- 「「死ぬこと」の利害」(2010年度グローバルCOE夏季セミナー《医療・介護従事者のための死生学》、東京大学人文社会系研究科、2010年7月31日)
- "Degrees of Freedom and Life Science" (*Metaphysics of Science Conference*, Kyung Hee Global Research Network Team, Seoul, Korea, 5 August 2010)
- 「「動物への配慮」の欠落と充実」(死生学シンポジウム「ヒトと動物の関係をめぐる死生学」第二部「動物の倫理」での伊勢田哲治氏発表および鶴田静氏発表へのコメント、東京大学理学部小柴ホール、2010年9月4日)
- "Who is a Victim of Homicide?" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 1*. University of Oxford, Oxford Martin School, Old Indian Institute, Broad Street, 16 November 2010).
- "Freedom, Responsibility, and Natural Phenomena" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 2*. University of Oxford, Faculty of Philosophy, Lecture Room, 10 Merton Street, 22 November 2010).
- "Death Penalty and Human Rights" (*The 2010 Uehiro Lectures, 'Modes of Responsibility', Part 3*. University of Oxford, St Cross College, St Giles, 25 November 2010).
- 「死の被害性」(日本イギリス哲学会第35回研究大会・緊急セッション「東日本大震災のなかで—イギリス哲学研究からのメッセージ」提題、京都大学、2011年3月28日)
- "Rethinking The Death Penalty: Uncertainties over Harm, Blame, and Dangerousness" (*Tenth East-West Philosophers' Conference. Plenary Session "Distinguishing Worth and the Worthwhile"*, University of Hawaii at Mānoa, East-West Center, Imin Conference Center, 18 May 2011)
- 「無常と不確実性にまみれて—事実・評価・対策の三区分を踏まえつつ—」(第6回応用倫理・哲学研究会 東京大学緊急討論会「震災、原発、そして倫理」の「導入」、東京大学人文社会系研究科、2011年7月8日)

- 「「集団錯誤の呪縛」からの解放と、その後。」コメント・質問」（応用哲学会臨時大会、W-3、京都大学文学研究科、2011年9月23日）
- 「音楽化された認識論」再訪」（応用哲学会臨時大会シンポジウム「音楽と哲学：表現の限界」、京都大学文学研究科、2011年9月23日）
- 「東日本大震災後の未体験ゾーンー日本における低線量被曝論争の構図ー」（日台国際研究会議「東アジアの死生学へ」、国立中山大学社会科学院、台湾・高雄市、2011年10月7日）
- 「死者とは誰なのかー震災犠牲者を想いながらー」（朝日講座「知の冒険」、東京大学文学部一番大教室、2011年10月28日）
- 「特別講演・低線量被曝について」（哲学会第50回研究発表大会、東京大学文学部二番大教室、2011年12月4日）
- 「死生学プロジェクトの現在」（*The First Social Science and Humanities Forum between Japan and Russia*, Moscow State University, Moscow, Russia, 8 December 2011）
- 「死刑について考える」、川崎市民アカデミー、「現代日本における「死生学」の展開」、2011年12月12日
- 「原発事故と放射能問題をめぐる論争の帰趨」（東京大学グローバル COE プログラム「死生学の展開と組織化」研究会議「慰霊と被曝をめぐる死生学」、長崎市ベストウエスタンプレミアホテル長崎、2011年12月23日）
- "Probabilistic Causality Revisited" (*Tokyo Forum for Analytic Philosophy*. Inaugural Talk. The University of Tokyo, Japan. 12 April 2012)
- "The Hybrid Nature of Causation: In View of Some Ethical Issues" (*Uehiro Carnegie Oxford Conference 2012 Life: Its Nature, Value and Meaning*. International House of Japan, Tokyo, 18 May 2012.)
- 「放射能問題をめぐる不確実性と予防原則ー災害時における生と死を考えるー」（東京大学 GCOE プログラム「都市空間の」持続再生学の展開」連続シンポジウム「「しぶとさ」のマネジメントー頑健な都市システムに挑むー」、東京大学工学部、2012年6月7日）
- 「p-自由と f-自由ー自由と決定論の対比構図が見逃してきたことー」（科学基礎論学会 2012 年度講演会シンポジウム「自由意志の現在」、首都大学東京、2012年6月16日）
- 「放射能問題の被害性ー哲学は復興に向けて何を語れるかー」（「ポスト福島哲学」、東洋大学国際哲学研究センター、東洋大学、2012年7月4日）
- "Two Kinds of Doubts about the Kripkenstein's Rule-Following Paradox" (*International Conference: Kripke, Logic and Philosophy*, Peking University, Beijing, China, 2 September 2012)
- "Causality and Normativity" (A Plenary Lecture at *the First Conference on Contemporary Philosophy in East Asia*, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, 7 September 2012)
- 「死刑存廃、そして不可能論へ」（早稲田大学政経学部・規範倫理ワークショップ、早稲田大学政経学部、2012年10月9日）
- 「ハチ、そして犬と人のつながり」（「上野英三郎博士とハチ公の銅像建立記念シンポジウム」、三重県津市・久居総合福祉会館、2012年10月20日）
- "The Rule-Following Paradox Revisited"（東北大学文学部集中講義特別講演、東北大学文学部、2012年12月12日）
- 「死について哲学的に考えるー死の被害性、そして死刑存廃論を手がかりにー」（日本生産性本部・経営ビジョン構想懇話会、ロイヤルパークホテル、2013年1月22日）
- "Descriptivity, Normativity, and Probability" (*International Philosophy Conference on Probability and Vagueness*, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, 20 March 2013)
- 「パークリの「能動／受動」が懐胎する積極的ゆらぎー『三対話』に発する数学観を手がかりにー」（日本イギリス哲学会第37回研究大会・シンポジウム I 「パークリ『三対話』刊行300年」提題、東北大学、2013年3月25日）
- 「因果の迷宮」（中島義道主催「哲学塾」、2013年4月7日、芦花公園マンションにて）
- 「生と死、そして道徳のディレンマについて考える」（福島高校講演会、2013年7月12日、

福島県立福島高校)

- "Beebe on Hume's inductive scepticism" (*WEB International Conference: Dialogue concerning Philosophical Methods of Empiricist and Rationalist*, International Research Center for Philosophy Toyo University, 12 October 2013)
- 「「犬と暮らす」ということ ―ハチ公をめぐる哲学断章―」(シンポジウム「東大ハチ公物語」、東京大学弥生講堂・一条ホール、2014年3月8日)
- 「あからさまな混乱がなぜ続くのか ―3.11の被害性について―」(3.11メモリアル・シンポジウム「生命をめぐる科学と倫理」・「問われる大学知」、東京大学福武ホール、2014年3月9日)
- 「予防原則と借金モデル ―「前門の虎、後門の狼」に立ち向かう―」(問われる大学知「哲学熟議 in 東京大学」、東京大学工学部、2014年3月11日)
- 「科学的発見のフィクション性と実在性」(哲学熟議第三回「研究倫理と生命倫理」、東京大学文学部一番大教室、2014年7月7日)
- 「福島原発と放射能問題を、哲学・死生学を切り口に考える」(ISL 7DAYS、ISL クラスルーム、東京、2014年8月6日)
- "On Omission-Involving Causation" (*The Second Conference on Contemporary Philosophy in East Asia*, Kyoto University, Kyoto, Japan, 28 August 2014.)
- 「因果応報と無」(シンポジウム「インドの大地が育んだ世界認識の枠組み~東西哲学対話の再出発~」、東京大学文学部教員談話室、2014年11月23日)
- 「倫理学とエネルギー問題」(3.11哲学熟議7「次世代エネルギーへのソフトランディング」東京大学工学部、2015年3月11日)
- "Causation by Absence and Normativity" (*The American Philosophical Association Pacific Division 89th Annual Meeting*, Westin Bayshore Vancouver, Canada, 3 April 2015.)
- 「『声主』(パーソン)と倫理」(哲学熟議8「声のメディオロジー」、東京大学工学部、2015年6月4日)
- 「死刑不可能論の射程 ―人権概念からの一つの哲学的・論理的展開―」(東京法哲学研究会6月例会、2015年6月20日、東京大学法学部)
- "How to solve the problem of profligate causation" (*International Conference: Williamson, Logic and Philosophy*, Peking University, China, 17 October 2015)
- 「仮言的主張としての「死刑不可能論」とその射程」(2015年度日本法哲学学会学術大会Cワークショップ「死刑は刑罰たりうるか」、沖縄県那覇市・市町村自治会館、2015年11月7日)
- "Music, Improvisation, and Knowledge" (*The 7th International Symposium on Temporal Design*, The University of Tokyo, 24 November 2015)
- 「放射線被曝と「いのちの大切さ」をめぐる迷走について」(日本学術会議 臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会第23期・第3回、日本学術会議、2016年1月7日)
- "Two Conditional Thinking on Rational Decision-Making" (*International Conference on Ethno-Epistemology: Culture, Language, and Methodology*, IT Business Plaza Musahi, Kanazawa, 3 June 2016)
- "Conterfactuals, Causation, and Absence" (*UHamburg-UTokyo Workshop: Language and Reality*, The University of Tokyo, Hongo Campus, 25 June 2016)
- 「不戦の未来に向けて―哲学倫理学からの小さなメッセージ―」(哲楽遊戯 VI「不戦の歳時記」、東京大学本郷キャンパス安田講堂、2016年8月9日)
- "A Degree-Theoretic Approach to Causation by Absence" (A Plenary Lecture at *The 3rd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia*, Seoul National University, Seoul, South Korea, 19 August 2016.)
- 「震災関連死の原因について」(日文研共同研究会「3.11以後のディスカール／『日本文化』」、国際日本文化研究センター、京都、2016年9月25日、Skypeによる参加)
- 「原因と結果の迷宮」(太陽ホールディングス講演会、埼玉県比企郡嵐山町太陽ホールディングス嵐山事業所、2016年9月30日)
- 「動物権利論が乗り越えるべき壁」(2016年度Aセメスター開講自主ゼミ「動物と生きる

- 我々が知っておくべきこと」、東京大学駒場キャンパス、2016年10月13日)
- 「東大ハチ公物語、そして人と犬ー感動と倫理を読み解くー」(NHK文化センター町田教室、2016年10月25日)
- "Is the Death Penalty Possible?: From a Lockean Point of View" (*John Locke Conference at Gakushuin*, Gakushuin University, 10 December 2016)
- "Causation, Prevention, and Precaution" (*The 6th International Symposium and Seminar on Global Nuclear Human Resource Development for Safety, Security and Safeguards*, Tokyo Institute of Technology, 1 March 2017)
- 「震災関連死の原因について」(「3.11以後のディスクール」研究会、仙台市ホテル・ニュー水戸屋、2017年3月12日)
- 「導入：現状、そして理解の混乱」(科研費「災害復興のための哲学構築」シンポジウム「あのときの、あれからの福島」、東京大学文学部一番大教室、2017年3月18日)
- 「被災動物、そして動物倫理の暗闇」(科研費「災害復興のための哲学構築」シンポジウム「あのときの、あれからの福島」、東京大学文学部一番大教室、2017年3月18日)
- 「安楽死と「死ぬ権利」(石岡市山王台病院「第13回募内会全体研修会」特別講演、石岡市山王台病院うきうきマイスター、2017年4月23日)
- 「新科目「公共」における倫理的テーマの背景」(北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会第52回大会、札幌市かでる2.7、2017年8月7日)
- "Causation, Deviation, and Absence" (*9th European Congress of Analytic Philosophy*, Ludwig-Maximilians-Universität, Munich, Germany, 22 August 2017)
- 「原因と結果の迷宮」(第226回文化交流懇談会、東京大学文学部、2017年10月19日)
- "Actual Causation and Responsibility" (「因果・動物・所有ー一ノ瀬哲学をめぐる対話ー」、東京大学文学部二番大教室、2017年12月23日、)
- 「福島はあなた自身ー哲学からのメッセージー」(「第272回原子カシステム研究懇話会」、日本原子力産業協会)
- 「犬、そして動物倫理」(太陽ホールディングス講演会、埼玉県比企郡嵐山町太陽ホールディングス嵐山事業所、2018年2月28日)
- "On Metaphysics of Death" (一ノ瀬正樹最終講義、東京大学文学部一番大教室、2018年3月20日)
- 「「音楽化された認識論」をめぐる」(慶應義塾大学 鈴木寛研究会主催シンポジウム「学藝饗宴ーあわいの領域を覗き込むー」、古賀政男音楽博物館けやきホール、2018年4月9日)
- 「高等学校新科目「公共」を考えるー哲学・倫理学を生かすためにー<導入>」(日本哲学会第77回大会・哲学教育ワークショップ、神戸大学、2018年5月18日)
- 「福島問題と将来への教訓ー哲学の視点からー」(土浦一高東進会 平成30年度総会、神田学士会館、2018年6月10日)
- "A Mystery and Irony in Hume's Theory of Causation" (*Special Conference on Hume and Locke*, Gakushuin University, 24 June 2018)
- "Late birth and early death: A consideration about the symmetry argument on death" (*The 4th Conference on Contemporary Philosophy in East Asia*, National Chengchi University, Taipei, Taiwan, 11 August 2018.)
- "Comments on Professor Levy's Presentation, "Social Scaffolding of Moral Belief" (Neil Levy 教授講演会、東京大学駒場キャンパス、2018年9月5日)
- 「死生の複雑性についての哲学的断章」(哲学熟議14 / 哲楽遊戯7「死海に青雲 生き死に いわず 生きんとのみ」、東京大学本郷キャンパス工学部、2018年9月23日)
- 「「予防原則」と「前進原則」ー科学技術に対する規制と推進の対比をめぐるー」(第26回「メタ科学技術ワークショップ」、神戸大学人文学研究科、2018年10月12日)
- 「「考える」ことをめぐる三つのコントラスト」(「<考える力>とは何か?ー思考の教育における哲学系諸学の役割」、指定討論者による質疑、日本学術会議第一部会哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会、東京テレコムセンタービル、2018年11月10日)
- "On Human Rights of Dead People" (*International Conference: Human Rights and Human Security. Achievements and Challenges. The 70th Anniversary of the Universal*

- Declaration of Human Rights*. European Solidarity Centre, Gdańsk, Poland, 19 November 2018.)
- 「ロック言語論と「プライベート性」の問題」(龍谷哲学会・講演、龍谷大学、2018年12月14日)
- 「福島における震災関連死とその周辺の問題をめぐって－哲学の視点から－」(「第50回原子力安全に関する特別セミナー」原子力安全研究協会、東京・三田 NN ホール、2019年2月25日)
- 「原子力災害といのちの保全－哲学の視点から－」(日本原子力産業協会、輸送・貯蔵専門調査会第96回(2018-6)定例会合、虎ノ門琴平タワー会議室、2019年3月12日)
- 「地域活性化シンポジウム東北ブロック－東日本大震災からの復旧・復興に向けた支援について－」(コーディネーターとして参加、福島市ホテル辰巳屋 8階瑞雲・宝生の間、2019年3月13日)
- 「死者の幸福は語りうるか」(第二回 Shiawase 学会(Shiawase3.0)、武蔵野大学有明キャンパス、2019年3月21日)
- "Williamson on Thought Experiments" (*Japanese Society for British Philosophy, the 43rd Annual Conference*, Hiroshima International University, 29 March 2019.)
- 「高校新科目「公共」について－哲学の視点から－」(令和元年度 都倫研第一回研究例会、首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス、2019年6月15日)
- 「因果と応報－哲学の視点から－」(第611回「武蔵野大学日曜講演会」、武蔵野大学武蔵野キャンパス雪頂講堂、2019年6月16日)
- "Thought Experiments, Counterfactuals, and Knowledge: From Williamson Onwards" (*Tokyo Forum for Analytic Philosophy*. Komaba Campus at The University of Tokyo, Japan. 3 July 2019)
- "Locke on language and its privateness" (*UK-Japan Special Conference: Aspects of Early Modern British Philosophy*, The 1st Overseas Session of Japanese Society for British Philosophy, St Peter's College, The University of Oxford, 11 September 2019)
- "On Infinite Regress in Hume's Theory of Causation" (*Various Shapes of British Thought and Philosophy---Centering on Enlightenment and Common Sense Philosophy*, The Institute of Political Science and Economics, Musashino University, 18 October 2019)
- 「人と動物のつながり?－ハチ公、けれど鳥獣害」(東京大学朝日講座『つながりから読み解く人と社会』、2019年11月20日、東京大学文学部一番大教室)
- 「原子力災害におけるリスクと予防－哲学的因果論の観点から－」(「第51回原子力安全に関する特別セミナー」原子力安全研究協会、東京・三田 NN ホール、2020年2月26日)
- 「エシカル・エンジニアの時代に向けて：これからの自動車技術が求めるエンジニア像・その展望」(『自動車技術会オンラインフォーラム』、2020年7月30日)
- 「東京大学、そして哲学」(茨城県立土浦第一高等学校講演会、土浦一高、2020年10月15日)
- 「新型コロナウイルス問題における倫理」(武蔵野大学しあわせ研究所シンポジウム「「不可避免的な病災害のなかでのしあわせ学」序説」、武蔵野大学有明キャンパス、2021年1月11日)
- 「新型コロナウイルス問題と感染症倫理」(日本学術会議「いのちと心を考える」分科会、オンライン発表、2021年2月27日)
- 「震災10年を機に新型コロナウイルス問題を考える」(哲学熟議、オンライン発表、2021年3月9日)
- "Disaster, Precaution, and Causation: In the Light of Cass Sunstein's Philosophy" (*The American Philosophical Association Pacific Division The 94th Annual Meeting, Online*. 9 April 2021.)
- "Causation and the Ethics of Belief" (*Philosophical Association of Japan The 30th Annual Meeting*. Online. 15 May 2021.)
- 「宇宙、人権、そして幸福」(「アゴラ・サーバントリーダーシップ・ビジネススクー

- ル」、株式会社レアリゼ、2021年9月12日)
- 「「SDGs 基礎/発展」の授業実践について」(令和3年度教養教育部会FD研修会、オンライン、2021年9月17日)
- 「SDGsおよびP4C」(塚原学園青葉台初等・中等学部、かすみがうら市、2021年11月10日)
- 「土浦一高、東京大学、そして哲学ー哲学・科学・宗教の交差ー」(茨城県立土浦第一高等学校講演会、クラフトシビックホール土浦、2021年11月26日)
- 「死者の幸福は語りうるか」(仏教・しあわせ研究会第5回例会、オンライン、2021年12月3日)
- 「「死刑論」再訪」(Meet The Expert、武蔵野大学認知行動療法研究所、オンライン、2022年2月18日)
- 「小学校って何するところ」(あおば台幼稚園講演会、2022年2月25日)
- 「「しあわせ」の二極性」(『持続可能性 2030年の未来に向けて ~「しあわせ学」の前進~』、武蔵野大学しあわせ研究所第6回シンポジウム・通信教育部2021年度シンポジウム共催、武蔵野大学有明キャンパス、2022年2月26日)
- 「小学校って何するところー哲学研究者の視点からー」(あおば台第二幼稚園講演会、オンライン、2022年3月10日)
- 「リスクと有害性をめぐる倫理」(「低放射線リスクとモラルを考える」、NPO法人「放射線安全フォーラム、オンライン 2022年3月27日)
- 「原子力政策についてー哲学研究者の視点からー」(内閣府・原子力委員会定例会、オンライン、2022年6月27日)
- 「規範倫理、ディレンマ、そしてリスク」(「アゴラ・サーバントリーダーシップ・ビジネススクール」、株式会社レアリゼ、2022年9月10日)
- 「「子ども哲学」について」(あおば台第二幼稚園、2022年9月13日)
- 「「子ども哲学」について」(あおば台幼稚園、2022年9月28日)
- 「因果関係の謎ー哲学の練習」(土浦第一高等学校講演会、2022年10月8日)
- 「死者はどこかに存在するのだろうか」(武蔵野大学大学礼拝、有明キャンパス3号館301教室、2022年10月13日)
- 「哲学倫理学と道德教育のはざま」(『日本道德教育学会第100回記念大会』、武蔵野大学武蔵野キャンパス、2022年11月20日)
- 「正義と幸福、そして未来へー哲学的に考えるー」(「バナソニック研修会」、株式会社レアリゼ、2023年1月6日)
- 「ウェルビーイングと死」(武蔵野大学しあわせ研究所第7回シンポジウム「「ウェルビーイング学」構築序説」、武蔵野大学有明キャンパス、2023年2月23日)